

## 第4学年国語科学習指導案

高山市立花里小学校  
授業日 平成17年11月16日  
第3校時  
授業者 上野亮子  
場所 4年組

- 1 単元名 よりよい意見にまとめよう
- 2 教材名 話し合って決めよう
- 3 指導にあたって

### (1) 教材について

3年生・4年生の「話すこと聞くこと」を、指導要領では、

#### 目標

・相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話すことや話の中心に気をつけて聞くことができるようにするとともに、進んで話し合おうとする態度を育てる。

#### 内容

・話すこと・聞くこと的能力を育てるため、次の事項について指導する。

ア 伝えたいことを選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話すこと。

イ 話の中心に気をつけて聞き、自分の感想をまとめること。

ウ 互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合うこと。

ことと記してある。小学校中学年では、「筋道を立てて話す能力」と「話の中心に気をつけて聞く能力」を育成し、「進んで話し合おうとする態度」を育てることを主なねらいにしていることになる。

話し合いとは、お互いの考えを伝え合いながら一つの出口に向かっていくものである。そのため、一方通行では成り立たない。また、意見や主張の異なるものが、一つの意志決定をめざして話し合うことは、そうたやすいものではない。

学校生活にもすっかり慣れ、様々な活動を積極的に楽しむことのできる4年生の子どもたちは、自分の思いも強くなり、他人を意識するとともに、自分の考えに固執することも少なくない。そこで協力して「進んで」話し合うことや、「互いの考えの相違点や共通点を考えながら」話し合うことが必要になってくる。

「話し合って決めよう」は、「学年交流会」で一年生に読んであげる本について学級で話し合っ  
て決めているCDの事例をモデルとしている。話し合いにありがちな問題点と対処の手だてを具体的  
なモデルとして示し、ロールプレイすることによって、児童は本教材の活動が何を求めているか  
自覚することができる。4年生の話し合いで大切なことは、「相手の話を受けて話し合う」こと  
である。そのためには、自分の考えと友だちの考えとの相違点や共通点を聞き取り、その内容を自  
分の話の中に取り入れて話せなければならない。この教材を通して、児童が協力し合って意志決定  
を図るための話し合いの仕方を学ばせていきたい。

### (2) 児童の実態

話すことに関して、個人差がある。自分の思っていることを進んで話そうとする子がいる一方で、まわりに押されてなかなか自分の思いを話せない子（特に女子）がいる。進んで話そうとする子の中には、前の人とのつながりというより、ただ自分が話したいという子もいる。また、指導内容(ウ)で挙げられている話し合いの活動では、一度自分が発言した意見を頑として曲げない子がいて、平行線が続いてしまうこともあった。話し合いがよく話す一部の子供たちだけで成りたってしまう、司会者もまわりをなかなか見られないこともあり、他の子供が意見を言いにくい雰囲気を作ってしまうときもあった。そんな場面では、一度話し合いを中断し、司会者にはまわりの意見も聞くように話したり、盛り上がる子には人の意見も聞くよう声かけをしてきた。

自分の思いが話せない子の中には、間違えていたら嫌だという気持ちや、人前で話すこと自体が苦手な子もいる。また、一部の子は、理解するのに時間がかかり、自分の意見を持つことができず、発表できない場合がある。運動会の応援で出せたあの声を子供たちの宝物と価値付けたり、意見を聞く前に、ペアやグループで確認する時間を作る事で自信を持たせて発表につながるようになってきた。また朝の会では、スピーチの時間を設け、1学期の前半は、スピーチの内容を決め、前日に原稿を書いて発表するという形をとって

きたが、後半から日直が「お題」を考え、即興で浮かんだ言葉を全員が話すと変えたことで、みんなが毎日話す機会を作ってきた。

この教材を通して、話し合いにおいてのルール（自分の考えを進んで話す・最後まで話を聞く・反応する）を見つけ出し、話し合いにおいて重要な視点（この話し合いは何をどうすることが目的か・参加者の意見で共通するものと異なるものは何か・今進んでいる話し合いは、目的に合い、かみ合っているか）を身につけさせ、どの子ども自信を持って話し合いに参加できるようになってほしいと願っている。

観点別に児童の実態を捉えてみると、

国語への関心・意欲・態度

話そうとする子は、うまく文にならなくても人前で話そうとする児童はいるが、全体的には、話したいという思いはあっても、なかなか人前で話せない児童も多い。ペアやグループで相談したあとは自信を持って話すことができる児童が多い。また最後まではっきりと話せる児童が少なく、尻切れとんぼで終わったり、言葉を濁してしまうときもある。ただし、付け足しや質問など前の仲間の発表を聞いての反応ができる児童が増えてきた。

話す・聞く力について

自分の思いをなかなか自分の思うように話せる力がまだ弱い。筋道を立てて話すことについては、どんな順番で話せばいいのかや、もっとも伝えたいことは何かを考えて話す力が弱く、話したいことをまとめないと、ただ話すだけで、相手に伝わらないことが多い。また、仲間の意見に対して、短い文なら自分と同じなのか違うのかが分かり、反応することができるが、長い話になると、何が大切なかが分からず、反応できない。また、メモを取るときも、文の中で何が大事なかがわからず、メモできない。聞き取る力も弱い。

言葉についての知識・理解・技能

学級全体に話すのか小集団で話すのかや、改まって話すのか自由に話すのかなど、場面や条件の違いによって話す音量や速さを使い分けて話せる児童は少ない。また、普段から敬語や丁寧な言葉で話すことになれていないので、相手やその場の状況で使い分けることがなかなかできない。この学習を通して、必要に応じて使えるようになればよいと考えている。

### （３）指導の立場

協力して「進んで」話し合うことや、「互いの考えの相違点や共通点を考えながら」話し合うことができるよう、本単元ではどのような話し方が分かりやすいのか、どのような聞き方がよいのか、よりよく話をまとめていくためにはどのようなことに気を付けたらよいのかを、教科書教材の話し合いのＣＤを聞くことで気づかせていく。気づいたことを全体の場で確認し、次の自分たちの話し合いへの意欲づけをする。話し合いのテーマについては、話し合いの活動に興味を持ち、進んで話し合いに参加できる態度を育てるために、誰でも容易に話したり聞いたりすることができる内容になるものを設定し、指導していきたいと考えている。

### （４）研究主題に関わって

研究主題「意欲をもち、相手に伝わるように、自分の思いや考えを表現する能力の育成」

～話す・聞く領域を中心とした国語科学習～

研究内容 「単元づくりの工夫」について

子どもの実態と指導内容をふまえ、評価規準を位置づけた単元指導計画を作成する。

単元の出口（みんなが納得できるような話し合いをして、学年イベントの中身を決めよう。）を明確にして単元指導計画を作成。そのために、児童の意識（こんな話し合いがしたい）を大切に、付けたい力（評価規準）を明確にしていく。

子どもにとってより目的意識をもった学習課題を設定する方法を具体化する。

子どもたちに、みんなが納得できるような話し合いをして、学年イベントの中身を決定するという目的意識を持たせる。その目的を達成するには、納得できる話し合いの方法を知り、使えるようになることが大切だということを押さえておく。また、話す人、進行する人と分けて考え、それぞれの立場で考えられるような学習課題を設定する。聞く側の目的意識かが持てることになる。また、振りかえる活動を通して、友だちの話し方、聞き方の良いところを次の話し合いで活かすことができる。

研究内容 「学習活動と指導・援助の工夫」

付けたい力と子どもの実態に応じた学習形態を工夫する。

話し合うことを技能として考えると、その技能を学んで使える場が必要になる。そこで、学級での話し合いを技能を身につける場と捉え、質を高めることを行おうとした。そうして、学年での話し合いの場を磨く場として設定した。また、大勢の前でなかなか話せない児童にとっては、こうすることで、自信を付けていくことができる。また、たくさんの友だちの意見を聞きながら、自分の意見を持つことができる。

子どものつまずきに応じた指導・援助を具体化する。

みんなが納得するような話し合いのためのポイントを短冊にかき、壁面掲示に残していく。その都度立ち返らせ、ポイントを押さえる。事前にはんし合う話題を伝えておくことで、なかなか意見を持ってない児童も自分なりの思いをもつことができる。

研究内容 「仲間の良さや自己の高まりに気づく評価の在り方」

自己評価の場と方法の在り方を具体化する。

みんなが納得する話し合いをするためには、必要なポイントをそれぞれがカードに書き、机の上に置き、話し合いに望む。そのカードを裏返すことで、意識しながら、話し合うことができる。そうすることで、自分の話し合いにおける姿を客観的に評価させていきたい。

仲間の学びの良さや気づく相互評価の在り方を具体化する。

話し合いの様子をビデオに録画し、実際に自分たちの話し合いを見ることで、自分の発言も振り返ることができるが、仲間の良いところ、直すと良いところも、具体的に話していくことができる。

4 単元の目標

合意点を見つけようと発言し、話し合いによって物事を決める楽しさを知る。

学級での話し合いに、積極的に参加することができる。(関心・意欲・態度)

友達と互いの考えの相違点や共通点を理解しながら決めるために進んで話し合うことができる。(話す・聞く)

その場の状況や目的に応じた適切な音量や速さで話すことができる。(言語)

相手やその場の状況に応じて丁寧な言葉で話すことができる。(言語)

5 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 話す・聞く力	ウ 言語についての知識・理解・技能
自分の思いを通さないで、まわりの意見を聞いて一つの意見にまとめたり、自分の思いを持ち、話し合いに参加することができる。	自分と仲間の考えは同じなのか違うのかがわかり、反応し、自分の意見を話すことができる。	相手にわかりやすい速さ音量で話しかけている。丁寧な言葉使いで話している。

6 単元の5つの言語意識

相手意識	目的意識	場面・状況意識	方法意識	評価意識
学級の仲間	みんなが納得できるような話し合いをして、学年イベントの中身を決定する。	学級会の場面での話し合い。	友だちとの共通点や相違点を考えながら話し合う。	話すときに、話題からそれず、立場をはっきりさせたり、仲間の考えを取り入れて話すことができたか。また、自分の考えと友だちの考えとの相違点や共通点を聞き取ることができたか。